

2024年3月期（第56期） 決算説明会資料

加賀電子株式会社

<プライム市場 8154>

2024年5月23日

KAGA ELECTRONICS CO., LTD.

目次

● 2024年3月期 P- 3～

2024年3月期決算 サマリー
業績ハイライト/セグメント・会社別概況
バランスシート/キャッシュフロー/通期業績予想

● 経営トピックス P-29～

2024年3月期総括
在庫推移
『中期経営計画2024』経営目標の進捗状況
EMSビジネス拡大に向けメキシコ新工場指導
サステナビリティ中長期経営計画：主要KPI/進捗

● 参考情報 P-40～

2024年3月期 決算概要

上席執行役員 管理本部長
石原 康広

加賀電子の石原でございます。
平素よりご支援、お引き立てを賜り、誠にありがとうございます。
また、本日は弊社の決算概要説明を御視聴頂き、厚く御礼申し上げます。
それでは、私より、2024年3月期 決算の概要について、ご説明申し上げます。

2024年3月期決算 サマリー

2024年3月期 実績

- **売上高は、前期比653億円 (10.8%) 減収の5,426億円。**
電子部品事業において、スポット需要の消失やグループ会社での大口顧客との取引縮小に加え、3Q以降に在庫調整の影響が本格化。
- **営業利益は、前期比64億円 (19.9%) 減益の258億円。**
販管費削減に努めるも、売上高減少に伴う売上総利益減少が主因。
- **当期純利益は、前期比27億円 (11.8%) 減益の203億円。**
投資有価証券売却益 (14億円) や企業買収に伴う負ののれん益 (4億円) 計上。
- **会社計画に対して、売上高は若干未達も、利益面では超過達成。**

2025年3月期 見通し

- **売上前提：**エレクトロニクス関連市場は、車載向けが中心となっけん引する中長期的な成長シナリオは不変も、24/3期下期から本格化した在庫調整は当面継続、**本格的な需要回復は25/3期下期を見込む。**
- **利益前提：**長引く在庫調整に加え、賃上げなど費用増を織り込む。
- **業績予想：**以上を踏まえ、**売上高5,550億円 (2.3%増)、営業利益260億円 (0.6%増)、当期純利益180億円 (11.5%減)。**

株主還元

- 24/3期：期末配当は、前回予想 (2023年5月11日公表) どり1株当たり110円を**実施予定**。中間配当と合わせた**年間配当は、前期同額の1株当たり220円。**
- 25/3期：最終利益減益予想も、**1株当たり220円を維持。**



2024年3月期の実績です。

売上高は、前期比 6 5 3 億円減収の 5 , 4 2 6 億円、

営業利益は、前期比 6 4 億円減益の 2 5 8 億円となりました。

主力の電子部品事業におけるスポット需要の消失、3 Q以降に本格化した顧客在庫調整の影響が減収減益の主な理由となります。

販管費の抑制・削減に努めましたが、売上高減少に伴う売上総利益の減少により、営業利益は対前期比で減益となりました。

当期純利益につきましては、投資有価証券の売却益、企業買収に伴う負ののれん発生益など特別利益の計上もあり、前期比 2 7 億円減益の 2 0 3 億円となりました。

一方、昨年 5 月に公表しました社内計画に対しては、売上高ではわずかながら未達でありましたが、営業利益・経常利益・当期純利益については、いずれも超過達成で着地しました。

続いて2025年3月期の見通しです。

当社の属するエレクトロニクス関連市場においては、車載向けが中心となっけん引する中長期的な成長シナリオは変わりませんが、2024年3月期後半から本格化した在庫調整は当面継続するものと捉え、本格的な需要回復は2025年 3 月期の後半を見込んでおります。

このような経営環境に加え、先般実施しました賃上げなどによる費用増を織り込み、2025年3月期の見通しについては、売上高 5 , 5 5 0 億円、営業利益 2 6 0 億円、当期純利益 1 8 0 億円といたしました。

株主還元について、ご説明いたします。

2024年3月期の期末配当は、昨年 5 月に公表いたしました通り、1 株あたり 1 1 0 円を予定しております。

中間配当と合わせた年間配当は、前期と同額の 1 株あたり 2 2 0 円となります。

2025年 3 月期の配当については、最終利益は減益予想ですが、1 株あたり 2 2 0 円を維持する方針です。

2024年3月期 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前年比	2024/3期 業績予想 (2023年5月11日公表)	予想比
売上高	608,064	542,697	△10.8%	550,000	△1.3%
売上総利益	78,514 12.9%	70,452 13.0%	△10.3%	—	—
販売費及び一般管理費	46,265 7.6%	44,607 8.2%	△3.6%	—	—
営業利益	32,249 5.3%	25,845 4.8%	△19.9%	25,000 4.5%	3.4%
経常利益	32,739 5.4%	25,976 4.8%	△20.7%	25,000 4.5%	3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,070 3.8%	20,345 3.7%	△11.8%	18,000 3.3%	13.0%
EPS (1株当たり当期純利益、円)	878.65	774.61	—	685.42	—
ROE	19.6%	14.5%	△5.1pt	13.3%	—
為替レート 円/US\$	135.47	144.62	—	135.00	—

(注)：1. 為替による影響額は、売上高が12,539百万円、営業利益が420百万円です。
2. 「△、×、×%」は、売上高対比の率を表します。



次ページの業績ハイライトは、ただいまご説明した通りであります。

当期におけるEPS（一株当たり当期純利益）は、774円61銭となりました。ROEは14.5%となり、前期比で5.1ポイント低下しております。獲得利益の大半が純資産に積み増しされ、財務の安定性は高まる一方で、資本効率の面では、今後、更なる改善に向けた取り組みの必要性を感じております。

また、当期における期中平均為替レートは、ドル・円で144円62銭となっており、前期比、通期業績予想の想定レート135円と比べて、9円程度円安に振れております。

為替の変動による前期比の影響額は、売上高で約125億円の増収、営業利益では約4億20百万円の増益影響となります。

2024年3月期 セグメント別業績						
(単位：百万円)						
		2023/3期 実績	2024/3期 実績	前年比	2024/3期 業績予想 (2023年5月11日公表)	予想比
電子部品	売上高	539,342	472,583	△12.4%	471,500	0.2%
	セグメント利益	28,314 5.2%	20,887 4.4%	△26.2%	20,700 4.4%	0.9%
情報機器	売上高	43,680	44,305	1.4%	45,000	△1.5%
	セグメント利益	2,449 5.6%	2,924 6.6%	19.4%	2,500 5.6%	17.0%
ソフトウェア	売上高	2,998	2,567	△14.4%	4,500	△42.9%
	セグメント利益	286 9.6%	370 14.4%	29.0%	300 6.7%	23.4%
その他	売上高	22,044	23,241	5.4%	29,000	△19.9%
	セグメント利益	1,101 5.0%	1,555 6.7%	41.2%	1,500 5.2%	3.7%
合計	売上高	608,064	542,697	△10.8%	550,000	△1.3%
	セグメント利益	32,249 5.3%	25,845 4.8%	△19.9%	25,000 4.5%	3.4%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×. ×%」は利益率を表します。



セグメント別の業績です。

主力の電子部品事業におきましては、部品販売では半導体・電子部品の供給不足緩和により、前年度まで収益に寄与したスポット需要が消失したことや、エクセルの特定大口顧客向け取引の縮小に加え、顧客における在庫調整の影響が3Q以降に本格化したことにより、対前期比では減収減益となりました。EMSビジネスでは車載向けは半導体・電子部品の需給改善により伸長するも、医療機器・産業機器、空調向けは主要顧客の在庫調整の影響もあり、同様に対前期比では減収減益となりました。情報機器事業におきましては、教育機関向けパソコン販売、セキュリティソフトやPC周辺機器等の販売が堅調に推移、またLED設置ビジネスでは前年度から本格展開している大口案件が寄与し、対前期比で増収増益となりました。セグメント利益については、利益額・利益率ともに前期実績、社内計画の数値を上回る着地となりました。ソフトウェア事業では、売上高は前期比で減収となりましたが、セグメント利益では増益、情報機器事業と同様、利益額・利益率ともに前期実績、社内計画の数値を上回りました。

その他事業については、売上高は対前期比で増収、セグメント利益は前期比・社内計画比でともに上回る着地となりました。

セグメント利益率については、すべての事業セグメントにおいて、社内計画の数値を上回り、全体では通期計画4.5%に対して4.8%の営業利益率で着地しております。

8ページ～9ページにも、事業セグメント別の記載がありますので、併せてご覧ください。

2024年3月期 会社別業績

(単位：百万円)

		2022/3期 実績		2023/3期 実績		2024/3期 実績		前年比	前々年比
加賀電子	売上高	281,075		348,034		315,404		△9.4%	12.2%
	売上総利益	41,767	14.9%	53,123	15.3%	47,373	15.0%	△10.8%	13.4%
	営業利益	15,461	5.5%	21,899	6.3%	19,580	6.2%	△10.6%	26.6%
加賀FEI	売上高	149,455		199,548		190,684		△4.4%	27.6%
	売上総利益	14,690	9.8%	20,913	10.5%	19,218	10.1%	△8.1%	30.8%
	営業利益	3,654	2.4%	8,103	4.1%	4,413	2.3%	△45.5%	20.8%
エクセル	売上高	65,296		60,481		36,608		△39.5%	△43.9%
	売上総利益	4,247	6.5%	4,443	7.3%	3,834	10.5%	△13.7%	△9.7%
	営業利益	1,937	3.0%	2,072	3.4%	1,653	4.5%	△20.2%	△14.6%
合計	売上高	495,827		608,064		542,697		△10.8%	9.5%
	売上総利益	60,547	12.2%	78,514	12.9%	70,452	13.0%	△10.3%	16.4%
	営業利益	20,915	4.2%	32,249	5.3%	25,845	4.8%	△19.9%	23.6%

(注)：1. 各社の売上総利益および営業利益は、3社間での連結調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値を記載しております。
2. 「△、×、％」は利益率を表します。



続いて会社別の業績について、ご説明いたします。

従来からの加賀電子グループにおきましては、スポット需要消失の影響が大きく対前期比で減収減益となっておりますが、売上総利益率・営業利益率、いずれも前期実績と同水準を維持しており、収益力自体は維持出来ていることが確認出来ます。

加賀FEIグループにおいては、2024年3月期から開始したグループ内本社賦課費の計上や、特定取引先に対する貸し倒れ引当繰り入れなどにより、一見すると営業利益が大きく低下しているように感じられますが、スポット需要消失が売上高・売上総利益に与える影響は、それほど大きくはなく、高収益体質を確実に身に付けてきたことが見て取れます。

エクセルグループにおいては、大口顧客向け売上の減少はあったものの、販売ミックス良化により収益力を高め、利益面では売上高ほどの低下は見られず、売上総利益率・営業利益率ともに大きく向上させております。

全体的に対前期比では減収減益ではありますが、在庫の需給ひっ迫に伴うスポット需要など一過性の要因なども加味して大きな流れの中で捉えれば、売上総利益率はわずかながらも前期の数値を上回っており、持続的に「稼ぐ力」を維持し続けていることを感じ取って頂けるものと思います。

7ページ目のグラフも併せてご覧ください。

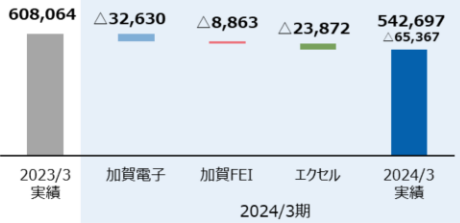
10ページ～15ページには、直近3か月間のクォーター情報がございますので、併せてご覧ください。

2024年3月期 M&Aの影響

(単位：百万円)

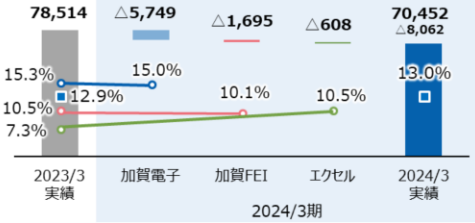
売上高

加賀電子、加賀FEIは、スポット需要消失等により減収。
エクセルは、大口顧客向け売上が減少。



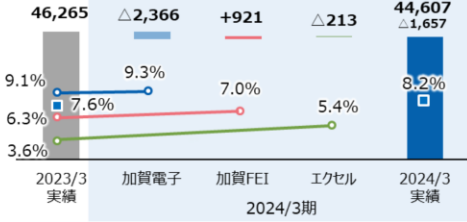
売上総利益 / 売上総利益率

3社ともに、売上高減少に伴い減益。
エクセルは、販売ミックス良化もあり利益率向上。



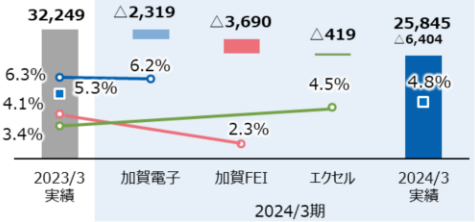
販管費 / 販管費率

加賀電子、エクセルは、販管費削減に努め減少。
加賀FEIは、本社賦課費、貸倒引当繰り入れ等により費用増。



営業利益 / 営業利益率

3社ともに減益。
エクセルは、販売ミックス良化により利益率は向上。



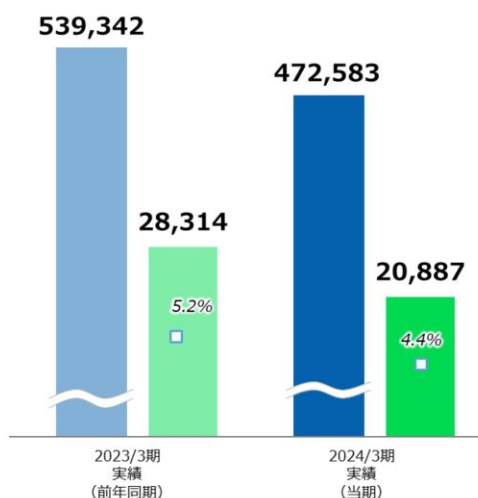
(注)：売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。7
なお、連結調整額は売上総利益は25百万円、営業利益は198百万円です。

2024年3月期：電子部品事業

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■/■ 売上高
■/■ セグメント利益



前年比

- 売上高 ▶ △66,759百万円 12.4%減
- セグメント利益 ▶ △7,427百万円 26.3%減

・ 部品販売ビジネスは、半導体・電子部品の供給不足緩和により、前年度まで収益寄与したスポット需要の消失、エクセルの特定大口顧客向け取引縮小に加え、3Q以降の在庫調整局面本格化の影響もあり、減収減益。

・ 加賀FEIにおけるSoC (System-on-Chip) 製品の販売は引き続き堅調。

・ EMSビジネスは、車載向けは半導体・電子部品の需給改善により伸長するも、医療機器、産業機器、空調向けは主要顧客での在庫調整の影響もあり、減収減益。



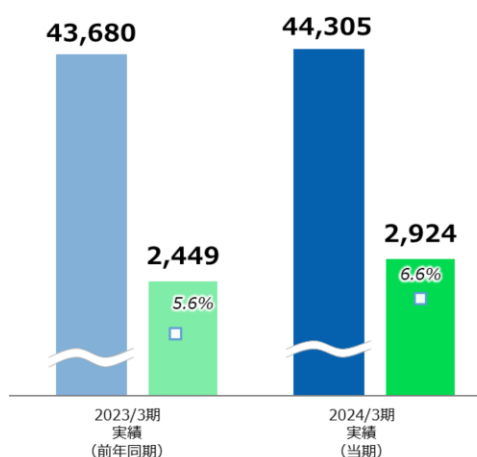
(注)：「x.x%」は利益率を表します。

2024年3月期：情報機器事業

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■/■ 売上高
■/■ セグメント利益



前年比

● 売上高 ▶ **+625百万円 1.4%増**
● セグメント利益 ▶ **+474百万円 19.4%増**

- ・量販店向けパソコン販売は需要低迷により苦戦するも、教育機関向けパソコン販売は、アカウント数も拡大し、順調に推移。
- ・セキュリティソフトやPC周辺製品等の販売も堅調。
- ・LED設置ビジネスは、前年度から本格展開している大口案件が寄与。



(注)：「x.x%」は利益率を表します。

2024年3月期 業績ハイライト（直近3カ月）

（単位：百万円）

	2023/3期 4Q実績	2024/3期 3Q実績	2024/3期 4Q実績	前年同期比	直前期比
売上高	155,843	131,413	136,239	△12.6%	3.7%
売上総利益	18,630 12.0%	17,091 13.0%	18,200 13.4%	△2.3%	6.5%
販売費及び一般管理費	12,387 7.9%	10,475 8.0%	12,846 9.4%	3.7%	22.6%
営業利益	6,242 4.0%	6,615 5.0%	5,353 3.9%	△14.2%	△19.1%
経常利益	6,121 3.9%	6,365 4.8%	5,664 4.2%	△7.5%	△11.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,017 2.6%	4,587 3.5%	4,353 3.2%	8.4%	△5.1%
EPS (1株当たり四半期純利益、円)	152.99 —	174.65 —	165.73 —	—	—

(注)：1. 為替による影響額は、売上高が約2,842百万円、営業利益が約90百万円です。
2. 「△、×、×%」は、売上高対比の率を表します。

2024年3月期 セグメント別業績（直近3カ月）

（単位：百万円）

		2023/3期 4Q実績	2024/3期 3Q実績	2024/3期 4Q実績	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	133,733	115,229	114,788	△14.2%	△0.4%
	セグメント利益	4,972 3.7%	5,363 4.7%	3,738 3.3%	△24.8%	△30.3%
情報機器	売上高	14,540	9,551	14,038	△3.4%	47.0%
	セグメント利益	949 6.5%	641 6.7%	1,002 7.1%	5.6%	56.2%
ソフトウェア	売上高	922	591	750	△18.6%	27.0%
	セグメント利益	151 16.4%	149 25.3%	107 14.3%	△29.1%	△28.2%
その他	売上高	6,647	6,041	6,660	0.2%	10.2%
	セグメント利益	129 2.0%	436 7.2%	495 7.4%	281.9%	13.6%
合計	売上高	155,843	131,413	136,239	△12.6%	3.7%
	セグメント利益	6,242 4.0%	6,615 5.0%	5,353 3.9%	△14.2%	△19.1%

（注）：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×. ×%」は利益率を表します。

2024年3月期 会社別業績（直近3ヵ月）

（単位：百万円）

		2023/3期 4Q実績		2024/3期 3Q実績		2024/3期 4Q実績		前年同期比	直前期比
加賀電子	売上高	93,560		78,517		80,478		△14.0%	2.5%
	売上総利益	12,901	13.8%	11,556	14.7%	12,165	15.1%	△5.7%	5.3%
	営業利益	4,320	4.6%	5,089	6.5%	3,922	4.9%	△9.2%	△22.9%
加賀FEI	売上高	46,255		44,360		47,556		2.8%	7.2%
	売上総利益	4,300	9.3%	4,510	10.2%	5,075	10.7%	18.0%	12.5%
	営業利益	1,093	2.4%	1,009	2.3%	980	2.1%	△10.3%	△2.9%
エクセル	売上高	16,027		8,535		8,203		△48.8%	△3.9%
	売上総利益	1,328	8.3%	993	11.6%	915	11.2%	△31.0%	△7.8%
	営業利益	695	4.3%	455	5.3%	332	4.1%	△52.1%	△26.9%
合計	売上高	155,843		131,413		136,239		△12.6%	3.7%
	売上総利益	18,630	12.0%	17,091	13.0%	18,200	13.4%	△2.3%	6.5%
	営業利益	6,242	4.0%	6,615	5.0%	5,353	3.9%	△14.2%	△19.1%

（注）：1. 各社の売上総利益および営業利益は、3社間での連結調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。

2024年3月期 M&Aの影響（直近3カ月）

（単位：百万円）

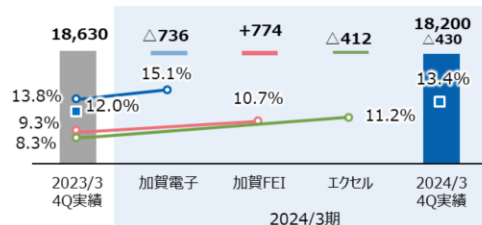
売上高

加賀電子、エクセルは、在庫調整局面の進行により減収。
加賀FEIは増収を確保。



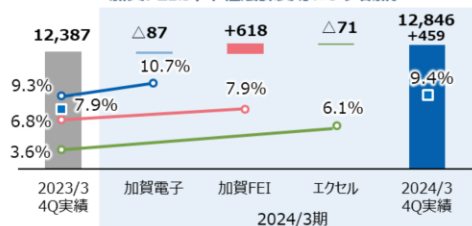
売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子、エクセルは、売上高減少に伴い減益。
加賀FEIは増益。



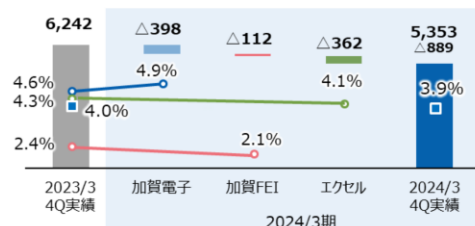
販管費 / 販管費率

加賀電子、エクセルは、売上総利益減少に伴い販管費抑制。
加賀FEIは、本社賦課費等により増加。



営業利益 / 営業利益率

3社とも減益となるも、連結ベースの営業利益率は前期並み。



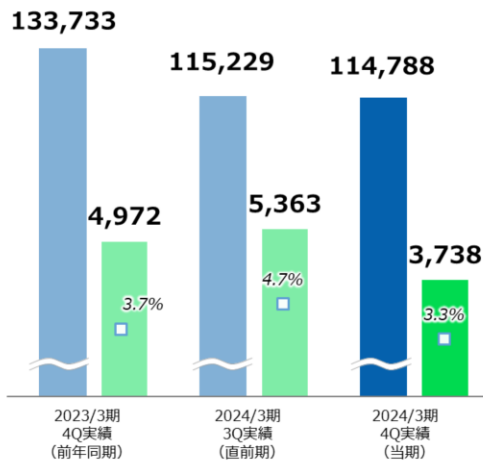
（注）：売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。13
なお、連結調整額は売上総利益は43百万円、営業利益は117百万円です。

2024年3月期：電子部品事業（直近3ヵ月）

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■ 売上高
■ セグメント利益



前年同期比

● 売上高 ▶ $\Delta 18,944$ 百万円 **14.2%減**
● セグメント利益 ▶ $\Delta 1,233$ 百万円 **24.8%減**

直前期比

● 売上高 ▶ $\Delta 440$ 百万円 **0.4%減**
● セグメント利益 ▶ $\Delta 1,624$ 百万円 **30.3%減**



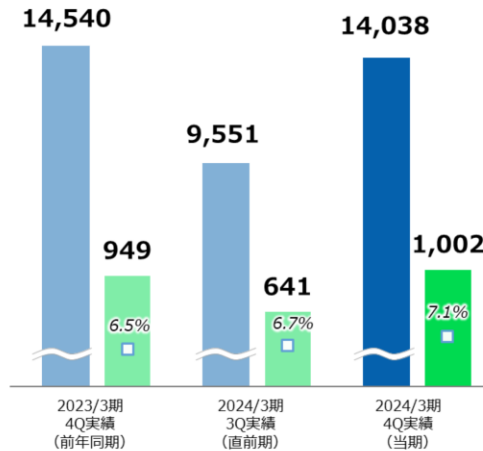
(注)：「x.x%」は利益率を表します。

2024年3月期：情報機器事業（直近3カ月）

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■ 売上高
■ セグメント利益



前年同期比

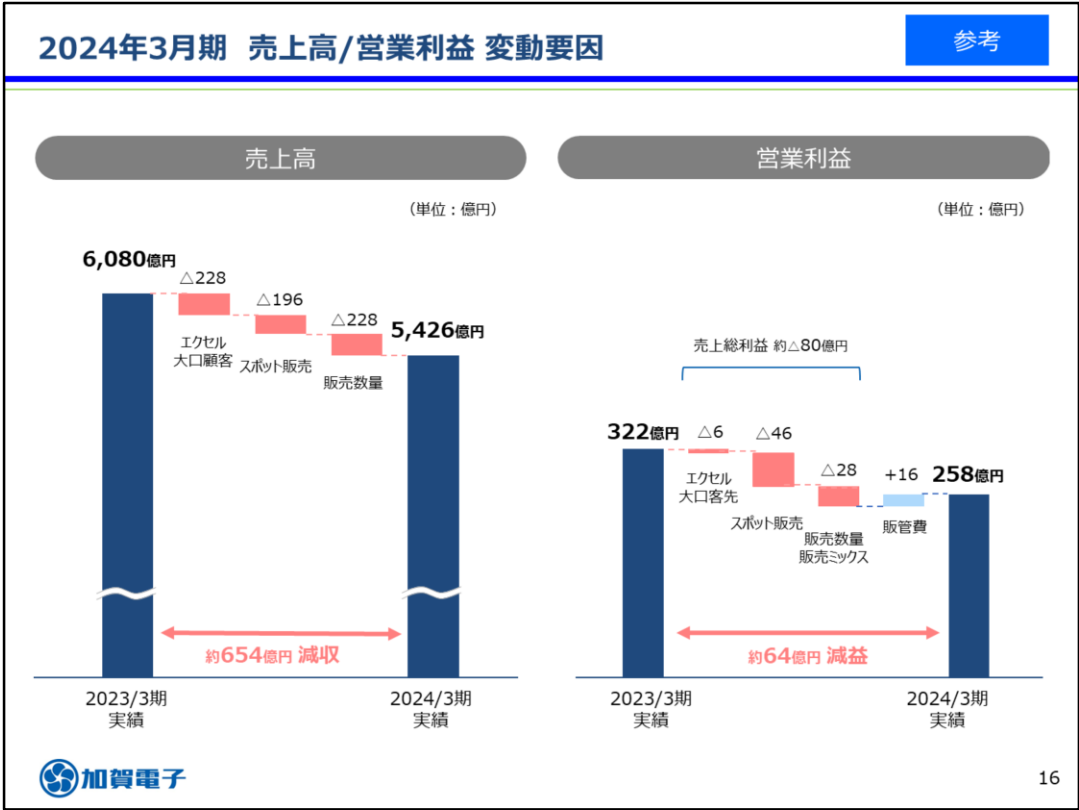
● 売上高 ▶ $\Delta 501$ 百万円 3.4%減
● セグメント利益 ▶ +52百万円 5.6%増

直前期比

● 売上高 ▶ +4,487百万円 47.0%増
● セグメント利益 ▶ +360百万円 56.2%増



(注)：「x.x%」は利益率を表します。

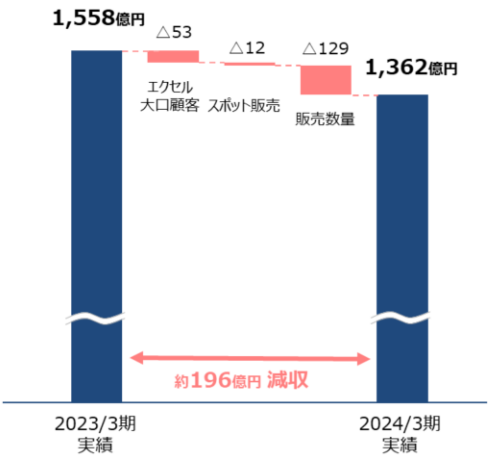


2024年3月期 売上高/営業利益 変動要因（直近3ヵ月）

参考

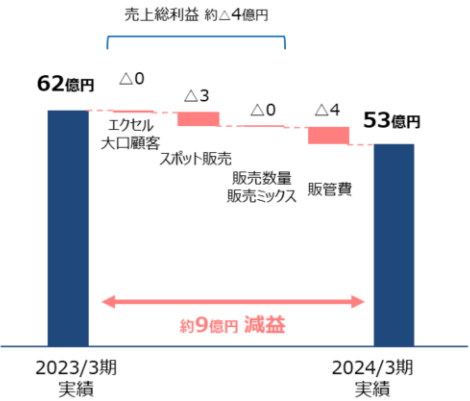
売上高（直近3ヵ月）

（単位：億円）

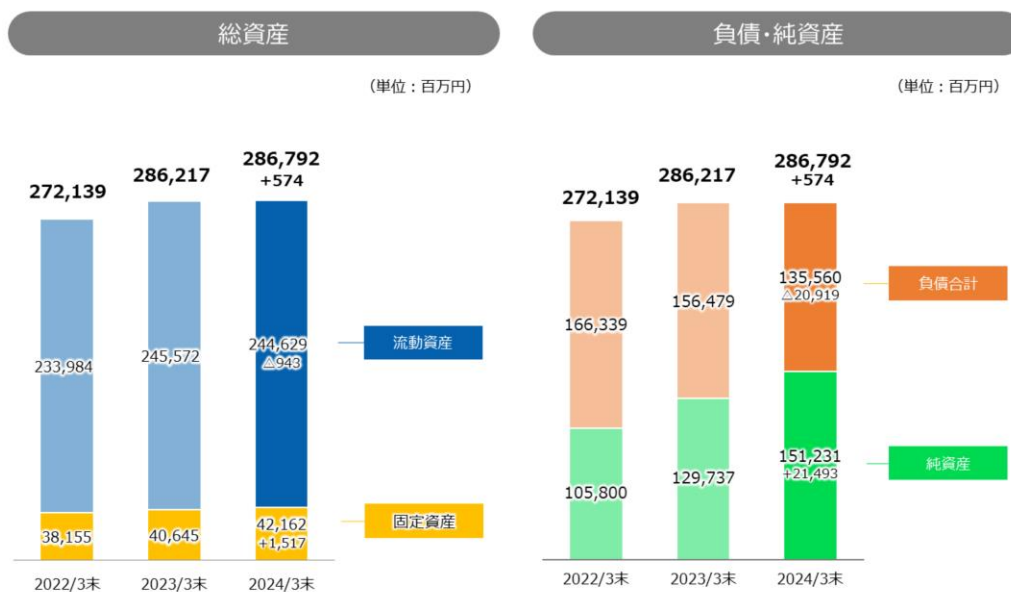


営業利益（直近3ヵ月）

（単位：億円）



貸借対照表主要項目



ここからは、貸借対照表の状況について、ご説明いたします。

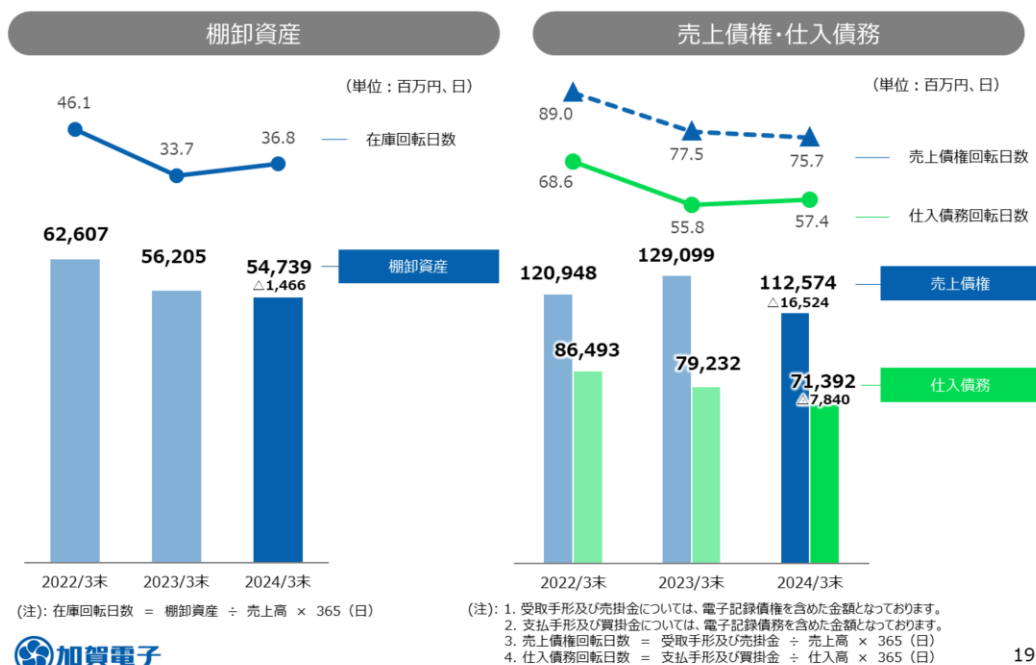
始めに資産の部となります。

流動資産は、売掛債権・棚卸資産の減少などにより対前期末比で9億円減少し2,446億円に、固定資産は、メキシコ新工場への設備投資などにより対前期末比で15億円増加した421億円となり、総資産合計では、対前期末比で5億円増加した2,867億円となりました。

負債の部は、買掛債務の減少、借入金の返済などにより対前期末比で209億円減少し1,355億円に、純資産の部は、利益剰余金の積み増しなどにより対前期末比で214億円増加した1,512億円となりました。

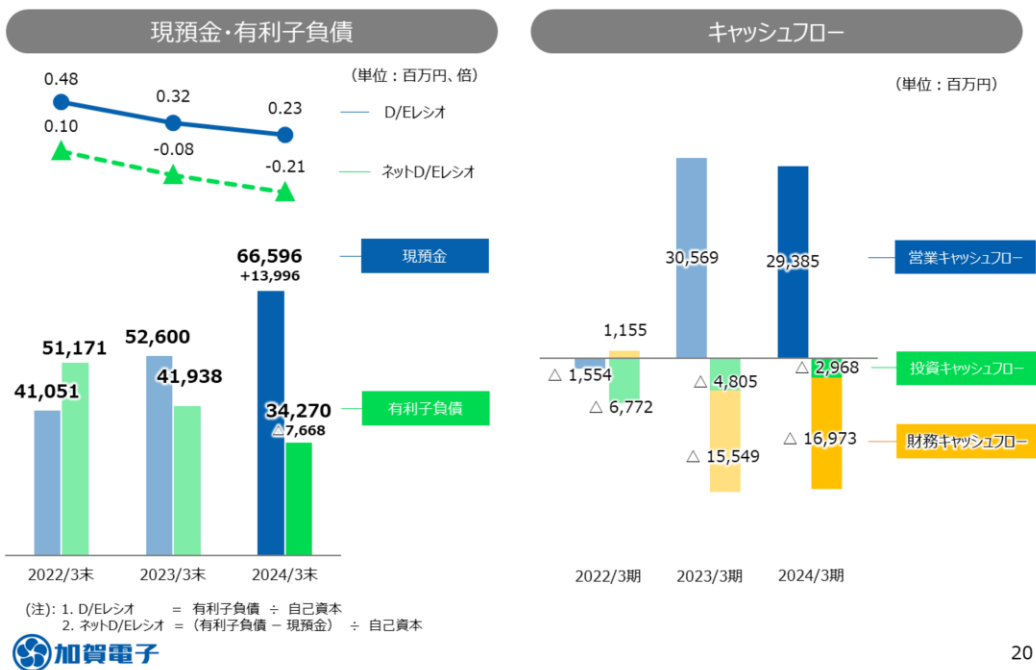
流動負債の大幅な減少により流動比率は233.4%に、自己資本比率は前期末の45.3%から7.3ポイント改善した52.6%となり、財務の安定性は向上しております。

貸借対照表主要項目



棚卸資産は、主要顧客の在庫調整などの影響の中、仕入・調達の調整などに努力した結果、対前期末比で14億円減少した547億円となりました。
 一方、在庫回転日数は売上高の減少もあり36.8日と3日ほど悪化しておりますので、引き続き在庫削減の取り組みを強化・継続してまいります。

貸借対照表主要項目/キャッシュフロー

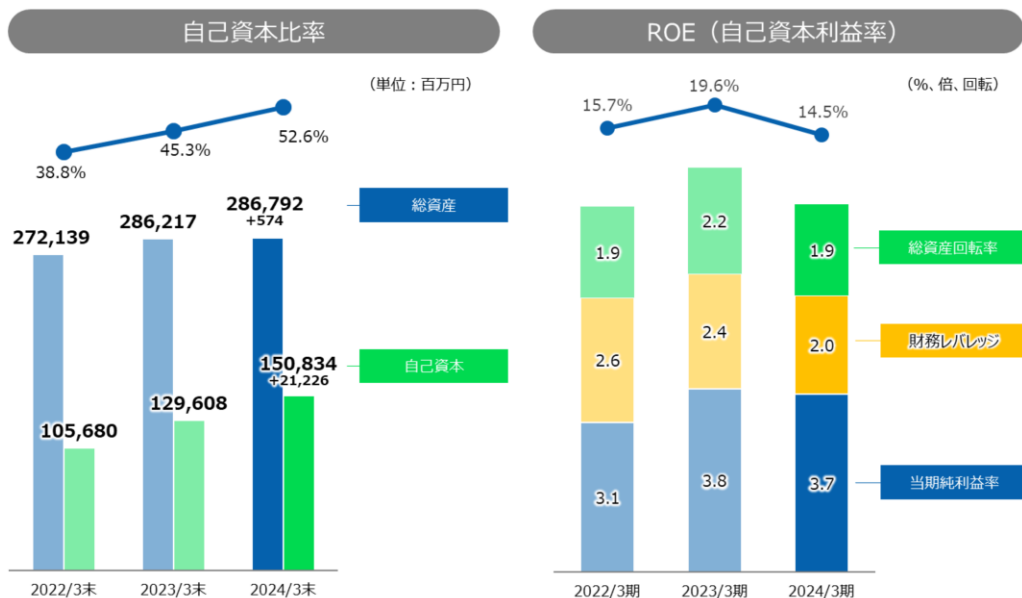


20

有利子負債は借入金の返済により対前期末比で76億円減少した342億円、利益獲得による自己資本の積み増しによりDEレシオは0.23倍と低く抑えられています。

前期とほぼ同水準となる293億円の営業キャッシュフロー収入から現預金残高は対前期末比で139億円増加した665億円となり、現預金の積み増しによって、ネットDEレシオは-0.21倍と前期末に引き続きマイナス値でさらに低く抑えられており、次なる成長投資に向け、財務基盤の安定性・体質強化はますます盤石となっております。

経営指標：安定性・効率性



自己資本の増加により自己資本比率は52.6%と財務の安定性は高まる一方で、ROEは14.5%と資本効率はやや低下しております。

引き続き、より一層収益力を高めるとともに、創出した資金の活用について、M&Aを含む事業拡大投資、成長に向けた生産設備などの事業基盤や人的資本への投資、株主還元など、多角的な取り組みを実施し、経営目標としている「ROE 安定的に10%以上」の持続的な維持・向上を目指します。

2025年3月期
業績予想

2025年3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2024/3期 実績	2025/3期 予想	前年比
売上高	542,697	555,000	2.3%
営業利益	25,845 4.8%	26,000 4.7%	0.6%
経常利益	25,976 4.8%	26,000 4.7%	0.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20,345 3.7%	18,000 3.2%	△11.5%
EPS (1株当たり当期純利益、円)	774.61 -	685.26 -	-
ROE	14.5% -	11.5% -	△3.0pt
年間配当金 (円)	220.00	220.00	-

(注)：「x.x%」は利益率を表します。



2025年3月期 業績予想について、ご説明いたします。

先ほど申し上げました通り、2024年3月期後半から本格化した顧客在庫調整は当面継続し、本格的な需要回復は2025年3月期後半を見込んでおります。長引く在庫調整に加え、賃上げなど費用増を織り込み、2025年3月期の業績予想につきましては、ほぼ前期並みの売上高 5,550億円、営業利益・経常利益 260億円、当期純利益 180億円と、させて頂きました。

なお、以上の業績予想を踏まえた2025年3月期のEPS（1株あたり当期純利益）は685円26銭、期末時におけるROEは11.5%を見込んでおります。当期純利益は減益予想ではありますが、年間配当金につきましては、前年と同額の220円を予定しております。

2025年3月期 セグメント別業績予想

(単位：百万円)

		2024/3期 実績	2025/3期 予想	前年比
電子部品	売上高	472,583	482,500	2.1%
	セグメント利益	20,887 4.4%	20,900 4.3%	0.1%
情報機器	売上高	44,305	45,000	1.6%
	セグメント利益	2,924 6.6%	3,000 6.7%	2.6%
ソフトウェア	売上高	2,567	3,000	16.8%
	セグメント利益	370 14.4%	400 13.3%	8.1%
その他	売上高	23,241	24,500	5.4%
	セグメント利益	1,555 6.7%	1,700 6.9%	9.3%
合計	売上高	542,697	555,000	2.3%
	セグメント利益	25,845 4.8%	26,000 4.7%	0.6%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。



セグメント別業績予想につきましては、各事業とも前期並みの水準を見込んでおります。

営業利益

(単位：億円)

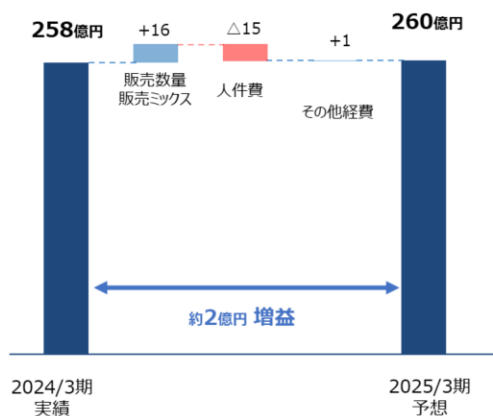
【2025/3期に織り込んだ固定費増加要因】

(1) 賃上げ 10億円

- ・ 加賀電子本体：一律25,000円(月額)引上げ
(平均7.8%賃上げ)
- ・ グループ会社：2.0%～7.5%賃上げ

(2) 新卒採用、定期昇給など 5億円

※当該影響を除き、実質+16億円(+6.4%)
の増益予想

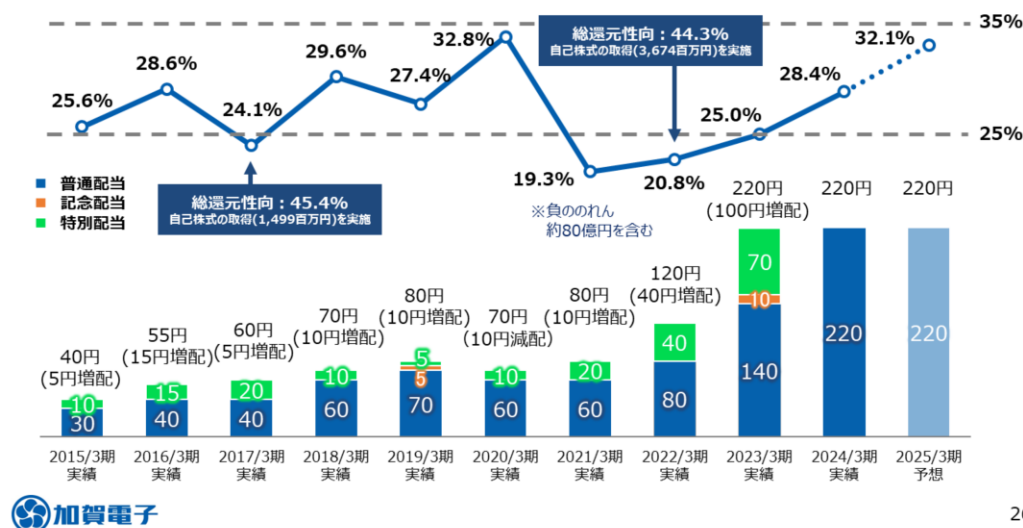


営業利益における、対前年比較による変動要因について、ご説明いたします。
2025年3月期より、グループ全体で約10億円の賃上げを実施いたしました。
加賀電子においては、一律で月額25,000円の賃金引き上げを行っております。
平均して7.8%の賃上げ率となります。
これに、新卒採用・定期昇給などの費用増5億円を加え、人件費で15億円の費用増を織り込みました。
増益要因として、販売数量増加・販売ミックスの良化により16億円の売上総利益の増益、人件費以外の経費抑制により1億円の増益を見込み、営業利益で約2億円の増益を見込んでおります。

配当推移(株主還元)

利益配分に
関する
基本方針

- 連結配当性向25～35%を確保しつつ、安定的な配当を実施する。
- 将来成長に資する事業投資・設備投資、M&A等に活用する。
- 自己株式の取得は、資本効率・株価等を勘案し、適切に判断する。



26

株主還元、配当について、ご説明いたします。

当社は、

・連結配当性向25～35%を確保しつつ、安定的な配当の実施・将来成長に資する事業投資・設備投資、M&A等への活用・自己株式の取得は、資本効率・株価等を勘案し、適切に判断する以上の3点を、利益配分に関する基本方針として掲げております。

2024年3月期につきましては、前期比で減収減益ですが、年間配当は前年と同額の220円で実施させて頂く予定です。これにより配当性向は28.4%となります。

また、2025年3月期においても、最終利益は減益予想ですが、年間配当は前年同額の220円を予定しております。これにより2025年3月期の配当性向は32.1%となる予定です。

また当社は、本年1月に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、取り組み方針を公表しております。

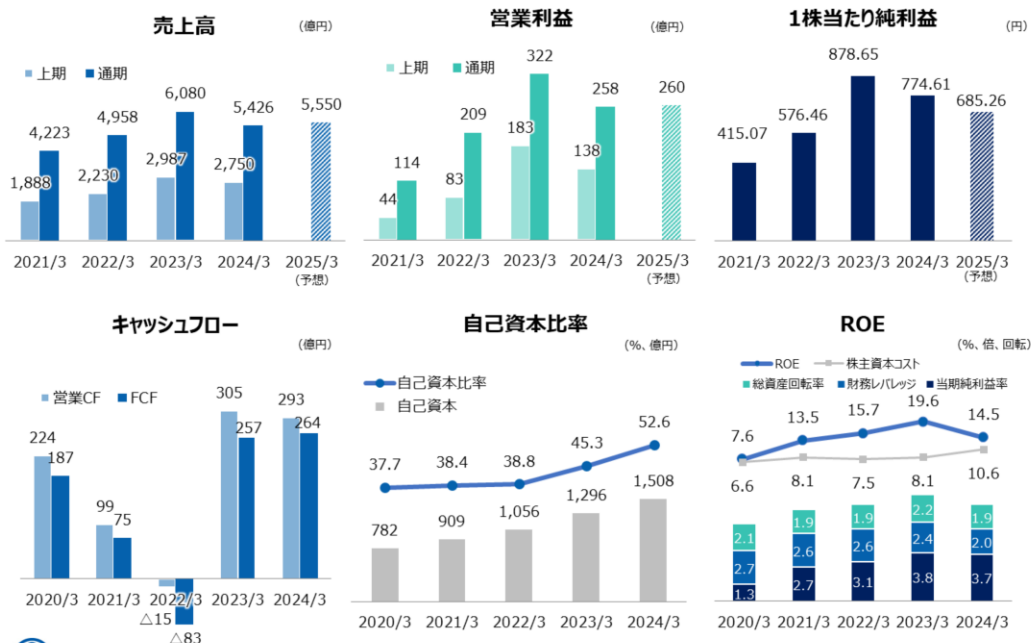
今後につきましては、その内容に則り、更なる収益力の強化・経営基盤の強化に取り組み、配当以外の利益配分についても、適宜、環境や状況を勘案の上、検討し、適切に取り組んでまいります。

28ページ以降には参考資料として、中期経営計画に沿ったセグメントによる任意開示の情報や、3か月毎のセグメント別や地域別売上高のグラフ、為替レート・為替感応度の情報なども載せてございますので、併せてご覧いただければと思います。

私からの、2024年3月期の決算概要説明は以上となります。

御視聴、誠にありがとうございました。

直近5年の業績トレンド



経営トピックス

代表取締役 社長執行役員
門 良一

加賀電子 社長の門でございます。

平素は当社のIR活動にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

それではこれより、2024年3月期の「経営トピックス」をご報告させていただきます。

主な内容は、「2024年3月期の総括」、「中期経営計画の進捗状況」、「サステナビリティ中長期経営計画の進捗状況」でございます。

2024年3月期 総括

2024/3期 総括

期初 予想

電子部品事業において、「顧客での在庫調整」および「スポット需要の消失」の影響を織り込み、「減収減益」予想。

実績

- 「スポット需要」は、想定通り、収益への寄与なし。
- 「在庫調整」の影響は、上期業績には当初想定していたほど発現せず売上高・営業利益とも社内計画を上回って折り返す。
- 下期に入ると在庫調整の影響が本格化、上振れ幅が徐々に縮小するも、通期計画は超過達成。

	1Q	2Q	3Q	4Q
営業利益	69億円	138億円	204億円	258億円
進捗率	28.0%	55.5%	82.0%	103.4%
社内計画比	+20億円	+38億円	+20億円	+8億円

2025/3期 見通し

- アップサイド：車載向けを中心とした中長期的な市場成長シナリオは不変。
- ダウンサイド：在庫調整は当面継続、本格的な回復は25/3期下期を見込む。
- 賃上げ：将来成長に資する人的資本への投資として、賃上げを決定。
- 当該影響15億円を織り込んでも、売上高、営業利益ともに増収増益基調への回帰を目指す。



まず、2024年3月期決算に対する総括でございます。

2024年3月期は、電子部品事業において、半導体・電子部品の需給緩和にともなう、「客先での在庫調整の影響」と、前期・前々期と収益拡大に寄与した「スポット需要の消失」の、2つの要因を織り込み、「減収減益予想」としておりました。

この1年を振り返りますと、「スポット需要の消失」は想定どおりでしたが、「在庫調整の影響」は、上期段階では、期初想定したほど発現せず、売上高、営業利益とも社内計画を上回って折り返しました。

一方、下期に入ると在庫調整の影響がいよいよ本格化し、その結果、営業利益の上振れ幅は徐々に縮小していきました。最終的には、8億円ではありますが、超過達成できました。

2025年3月期の見通しにつきましては、車載向けを中心とした中長期的な市場成長を見込むシナリオに変わりはありませんが、

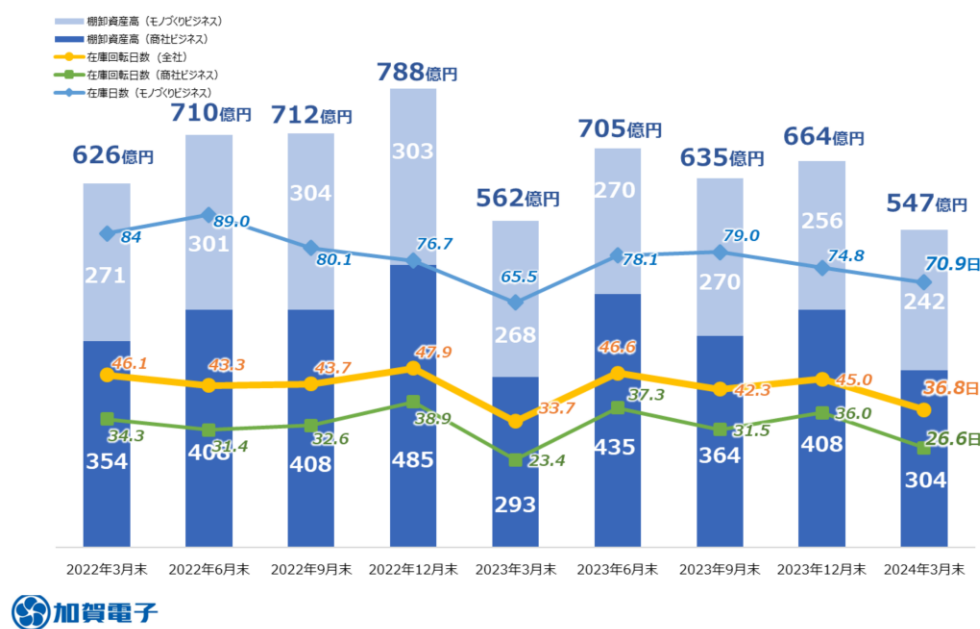
一方足元では、客先での在庫調整が当面継続し、本格的な需要回復は下期になるものと考えております。

また、将来の成長に資する人的資本への投資として、当社グループ全体で、賃上げを決定いたしました。

これにより、15億円の人件費増となりますが、この影響を織り込んでも、今期は「増収増益基調への回帰」を果たす年にしたいと思います。

在庫推移

棚卸資産高／在庫回転日数の推移



続きまして、当社の重要施策の一つとして、絶えず目配りを利かせている「在庫の推移」であります。

このグラフは、当社の連結在庫を、EMSを中心とした「モノづくり」ビジネスと部品販売を中心とした「商社」ビジネスに分解してお示しております。

2024年3月期は、期中は700億円前後で推移しておりましたが、期末在庫は547億円となり、期初からポジションを落とすことができました。
ただし、目標としていた「500億円以下」には届いておらず、まだ継続した取り組みが必要と認識しています。

引き続き、「500億円以下」と、「在庫回転日数30日」の目標達成に取り組めます。

『中期経営計画2024』 経営目標の進捗状況

- 当社は21年11月、3ヵ年計画『中期経営計画 2024』を策定、計画初年度となる23年3月期において、新規M&Aを除き、「売上高」「営業利益」並びに「ROE」の全てのKPIにつき最終年度(25年3月期)の経営目標を達成。初年度の実績を踏まえ、「最新見通し」として最終年度の業績見通しをアップデート。
- 今般公表の25年3月期業績予想は、想定外の在庫調整の長期化や賃上げの影響もあり、「最新見通し」とは乖離あり。よって、業績予想は「コミットメント」として、最新見通しは「チャレンジ目標」として位置づけ、最終年度の総仕上げに取り組む。

	経営目標 当初計画 2021/11/25公表	初年度 実績 2023/3期	経営目標 最新見通し 2023/5/11公表	2年目 実績 2024/3期	最終年度 業績予想 2025/3期
売上高	7,500億円 6,000億円: 自律成長 1,500億円: 新規M&A	6,080億円	変更なし	5,426億円	5,550億円
営業利益	200億円	322億円	300億円以上	258億円	260億円
ROE	安定的に 8.5%以上	19.6%	安定的に 10%以上	14.5%	11.5%



31

続きまして、「中期経営計画2024」の経営目標の進捗状況についてご説明いたします。

当社は、2021年11月、3ヵ年の『中期経営計画 2024』を策定し、公表しました。

計画初年度となる2023年3月期において、新規M&Aを除き、「売上高」「営業利益」並びに「ROE」のすべてのKPIについて、2年前倒しで達成することができました。

この初年度の実績を踏まえ、最終年度の業績見通しをアップデートし、2023年5月11日に「最新見通し」として公表いたしました。

今月9日に公表しました2025年3月期の営業利益予想260億円は、「最新見通し」の「300億円以上」とは、まだひらきがあります。

これは、一年前の「最新見通し」には織り込んでいなかった在庫調整の長期化や賃上げの影響に依るものでありますが、「業績予想」はステークホルダーの皆さまに対する「コミットメント」として、また、「最新見通し」は、わたし自身に課した「チャレンジ目標」として位置づけ、最終年度の総仕上げに取り組んでまいりたいと考えております。

『中期経営計画2024』 経営施策の進捗状況

- 基本方針に沿って重点課題に取り組み、概ね当初の目標を達成の見込み

	重点課題	主な成果	評価
更なる収益力の強化	・成長分野への選択と集中 ・EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大	・メキシコ新工場始動（24年4月）	○
経営基盤の強化	・コーポレートガバナンスの強化 ・効率的なグループ経営 ・人的資本への投資	・男性育児目的特別休暇制度を新設、73.7%利用（24/3期） ・グループ横断的に賃上げを決定（24年3月）	○
新規事業の創出	・新規分野への取り組み ・ベンチャー投資によるオープンイノベーション推進	・CVCを活用したベンチャー企業に対する出資（23/3期 5件、24/3期 1件）	△
SDGs経営の推進	※別途、「サステナビリティ中長期経営計画の進捗」にて説明		



次は、中計の経営施策の進捗状況に関して、でございます。

基本方針として、「更なる収益力の強化」「経営基盤の強化」「新規事業の創出」「SDGs経営の推進」を掲げております。

それぞれの重点課題の取り組み状況をまとめました。このように、主な項目につきましては、概ね当初の計画に沿って進捗しているものと認識しております。

まず、「更なる収益力の強化」につきましては、EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大として、2024年4月よりメキシコ新工場を始動させることができました。

「経営基盤の強化」につきましては、人的資本への投資に積極的に取り組み、男性の育児休暇の取得が進んだほか、先ほどご説明しました賃上げも実現いたしました。

一方で、「新規事業の創出」につきましては、CVCを活用したベンチャー企業に対する出資を進めることができましたが、新規M&Aは現時点では具体化できておらず、「△」の評価としております。

「SDGs経営の推進」につきましては、後半のスライドで、詳しくご説明いたします。

EMSビジネス拡大に向けメキシコ新工場始動

- 2024年4月、当初予定通りメキシコ新工場が操業開始。
- 今後ますます増大が見込まれる北米市場ならびに中南米市場向け生産需要に対応し、5年後には「売上高500億円」を目指す。
- メキシコ新工場の隣接区画に完成品組立工場『TAXAN-SWE MEXICO』を新設。
メキシコにて、基板実装に加えて部品成型・板金加工を含めた「一貫生産体制」を確立する。

TAXAN MEXICO S.A. DE C.V.	
	新工場概要
	所在地 : サンルイスポトシ州 アロヨス ミレニウム工業団地
	従業員数 : 700人 (操業開始時点)
	敷地面積 : 80,000㎡
	建屋面積 : 20,000㎡
投資予定額 : 5年で約50億円 (土地、建物取得費含む)	
	主な生産品目
	車載用照明ユニット組立て、 空調機器用電装基板組立て、など
	操業開始
	2024年4月



33

先ほども触れました、メキシコの新工場についてご説明いたします。

当社子会社の「タクサンメキシコ」は、2017年の設立以来、米国市場向け四輪自動車用照明ユニットの組立てを中心にEMSビジネスを展開しておりますが、今後ますます増大が見込まれる北米市場ならびに中南米市場向けの生産需要に対応するため、近接の工業団地に新工場の建設を進め、予定通り、本年4月に操業を開始いたしました。

さらに、新工場の隣接区画には完成品組立工場である『タクサン SWE メキシコ』を新設いたしました。

今後、基板実装に加えて部品成型・板金加工を含めたメキシコでの「一貫生産体制」を確立し、5年後には「売上高500億円」を目指してまいります。

サステナビリティ中長期経営計画：主要KPI

	主なテーマ	取組み課題・検討課題	中期目標	長期目標
E	再生可能エネルギー 100%化の実現	● 国内営業拠点における再エネ導入	2024年:40% (1%)	2030年:100%
		● 国内製造拠点における再エネ導入	～2024年:情報収集・ 分析及び方針決定 ・自家発電/外部調達	2030年: 50% 2050年:100%
		● 海外製造拠点における再エネ導入	・太陽光パネル/バイオマ ス発電/再エネ事業者	2030年: 30% 2050年:100%
	社有車両のEV化	● 国内営業車両の電動車(EV、HV、PHV、 FCV)への切り替え	2024年:85% (78.5%)	2030年:100%
S	ダイバーシティと 人材マネジメント	● 中核人材の多様性確保 (女性、外国人、中途採用) ● 高齢者・障がい者雇用の取り組み	<女性新卒総合職比率> 2023年:30% (5.8%) <女性管理職比率> 2024年:15% (13.3%)	<女性新卒総合職比率> 2028年:40% <女性管理職比率> 2029年:17%
	「ワークライフ・マネジメ ント」と「生産性向上」	● 育児・介護支援、テレワークなど各種制度拡充 ● 健康経営優良法人の認定取得	2022年:各種制度拡充 2023年:認定取得	2025年:外部認定取得 2024年～認定継続
G	CGコード改訂・東証 再編に対応した ガバナンス体制の 再構築	● 独立社外取締役1/3以上 ● 指名・報酬委員会の設置	2021年6月実施済み	次期CGコード改訂に 応じて目標設定
		● 取締役会の多様化	～2022年6月:方針決定	
		● プライム市場に対応したCGコード・フルコンプライ	2021年11月実施済み	
	経営の監督機能・ 執行機能の一層強化	● 「委任型執行役員」制度の導入	2022年4月:施行	
		● 「委員会等設置会社」への移行	～2023年3月:方針決定	



※()内は計画策定時値：2021年11月

34

ここからは、サステナビリティ中計2年目の進捗につきまして、ご説明いたします。

このページは、サステナビリティ中計で策定しました、テーマごとの中期目標および長期目標であります。

次のページ以降、E、S、G、の各テーマの進捗をご報告いたします。

2022年度の成果につきましては、1年前の説明会でご報告しておりますので、本日は、2023年度の進捗に絞って、主な事柄についてご説明いたします。

サステナビリティ中長期経営計画の進捗：環境

主なテーマ	取組み課題・検討課題	2022年度/2023年度の主な活動・進捗状況
E	再生可能エネルギー100%化の実現	
	● 国内営業拠点における再エネ導入	【2022年度】①再エネ由来電力は全体電力量の1.2%で導入済。②「24年度40%達成」のための施策検討。 【2023年度】①再エネ由来電力は全体電力量の5.1%で導入済。②「24年40%再エネ化」の目標達成に向けて、非化石証書購入を決定。併せて、24年度において温室効果ガス排出量定量化および削減目標設定を決定。
	● 国内製造拠点における再エネ導入	【2022年度】青森・福島・鳥取の拠点にて太陽光パネル設置に向け発電量を算出。実地設計を開始。 【2023年度】十和田工場(23年12月)、須賀川工場(24年2月)で太陽光発電設備を導入。
	● 海外製造拠点における再エネ導入	【2022年度】中国(湖北)、ベトナム、マレーシアにて太陽光パネルによる再エネ電力の導入開始。 【2023年度】メキシコ新工場(24年4月)にて太陽光パネルを設置。
	社有車両のEV化	【2022年度】電動化比率は前年度比1.2pt増の82.0%(23年3月末)。 【2023年度】電動化比率は前年度比3.0pt増の85.0%(24年3月末)。

まず、Eの環境です。

当社グループでは、「再生可能エネルギー100%化の実現」に向け積極的に取り組んでおります。

2023年度の主な進捗としては、国内製造拠点では、加賀EMS十和田、加賀マイクロソリューション福島事業所において、太陽光パネルによる再生可能エネルギー設備を導入いたしました。

また、海外製造拠点でも、中国・湖北工場、ベトナム工場への導入に加え、先ほどご紹介しましたメキシコ新工場にも太陽光パネルを設置しています。

再生可能エネルギー導入状況

- 再生可能エネルギー100%化の実現に向け、太陽光発電設備を順次導入。
- 引き続き積極的な導入により、環境に配慮したサステナブルな事業成長をめざす。

加賀EMS十和田 本社工場	加賀マイクロソリューション 福島事業所
	
発電能力 年間発電量 289,444kWh 再エネ率 10～20%	発電能力 年間発電量 158,761kWh 再エネ率 20～30%
導入時期 2023年12月	導入時期 2024年2月
ベトナム工場	湖北工場
	
発電能力 年間発電量 747,934kWh 再エネ率 70～80%	発電能力 年間発電量 1,086,118kWh 再エネ率 30～40%
導入時期 2022年11月	導入時期 2022年4月



注) 再エネ率：各拠点で使用する総電力量に対する再生エネルギーの割合（見込）

36

再生可能エネルギーを導入した代表的な拠点をこちらに掲載しております。

各拠点の発電能力などは記載のとおりです。年間使用電力のうち数十%程度を賄う工場がほとんどですが、中でも最大のベトナム工場では70%以上を賄える見込みとなっております。

今後も積極的な導入を進め、環境にも配慮しながら、サステナブルな事業成長を目指してまいります。

サステナビリティ中長期経営計画の進捗：社会

主なテーマ	取組み課題・検討課題	2022年度/2023年度の主な活動・進捗状況
S	ダイバーシティと人財マネジメント	■ 女性新卒総合職比率は、「行動計画」に沿った採用活動を実施。 【2022年度】新卒採用総合職22人中、女性4名。前年度比12.3pt増の18.1%。 【2023年度】新卒採用総合職23人中、女性5名。前年度比3.6pt増の21.7%に拡大も、目標30%に届かず。
		■ 女性管理職比率向上に関しグループ内で協議、各社ごとに女性管理職員数の目標人数を設定。 【2022年度】前年度比3.2pt増の16.5%。 【2023年度】前年度比0.9pt増の17.4%。
	障がい者雇用の取り組み	【2022年度】法定雇用率100%。 【2023年度】法定雇用率100%。
	「ワークライフ・マネジメント」と「生産性向上」	【2022年度】テレワークを恒常的な制度とし規程・ルール改訂を検討。 【2023年度】23年4月より新ルールの運用開始。
	健康経営優良法人の認定取得	【2022年度】23年3月、認定を取得。 【2023年度】24年3月、2年連続で認定取得。

次に、Sの社会です。

1つ目の「ダイバーシティ」について、将来的には、女性役員を社内人財から輩出することを最終目標として、女性新卒総合職比率と、女性管理職比率の向上に取り組んでおります。

2023年度は、女性新卒総合職比率が前年度に対して3.6ポイント上昇の21.7%、女性管理職比率は前年度に対して0.9ポイント上昇の17.4%となりました。

女性新卒総合職比率は目標とする30%にはまだ届いておりませんが、直近2年で15.9ポイント上昇しています。

「ワークライフマネジメント」としては、「健康経営優良法人」の認定を2年連続で取得いたしました。

サステナビリティ中長期経営計画の進捗：ガバナンス

主なテーマ	取組み課題・検討課題	2022年度/2023年度の主な活動・進捗状況
G	CGコード改訂・東証再編に対応したガバナンス体制の再構築	【2022年度】23年6月以降は取締役6名（うち社外取締役3名）とし、過半数以上を社外取締役とする方向。指名・報酬委員会は2021年6月に設置済み。 【2023年度】23年6月株主総会にて取締役6名（うち社外取締役3名）体制を決議。
		【2022年度】新任の社外監査役候補を女性とすることを決定。女性取締役選任に向け活動継続。 【2023年度】23年6月株主総会にて女性社外監査役を選任。24年6月株主総会での女性取締役選任は見送り。
	取締役会の多様化	
	プライム市場に対応したCGコード・フルコンプライ	【2022年度】22年6月より実施。 【2023年度】CGコードの改定なし。
	経営の監督機能・執行機能の一層強化	【2022年度】22年4月より施行開始。 【2023年度】グループ経営本部会議の構成員を委任型執行役員へ拡大することを決定。24年4月より運用開始。
	「委任型執行役員」制度の導入	
	「委員会等設置会社」への移行	【2022年度】監査役設置会社を継続とするも、取締役任期を現在の2年から1年に短縮（23年6月予定） 【2023年度】監査役設置会社を継続。経営の迅速性、女性取締役選任の必要性も考慮し、引き続き「監査等委員会設置会社」への移行を検討。



最後に、Gのガバナンスです。

1つ目のテーマは、「ガバナンス体制の再構築」であります。

経営の透明性を高めるとともに迅速な業務執行を行うことを目的として昨年の株主総会にて取締役の員数を「社内3名＋社外3名、計6名」に見直し、同時に、女性の社外監査役を選任いたしました。

また、「経営の監督機能・執行機能の一層強化」として、グループ経営本部会議の構成員を委任型執行役員へ拡大することを決定し、2024年4月より運用を開始しております。

なお、女性取締役の選任につきましては、まだ本年の株主総会上程には至っておらず、来年に向けて「継続検討課題」とさせていただきます。

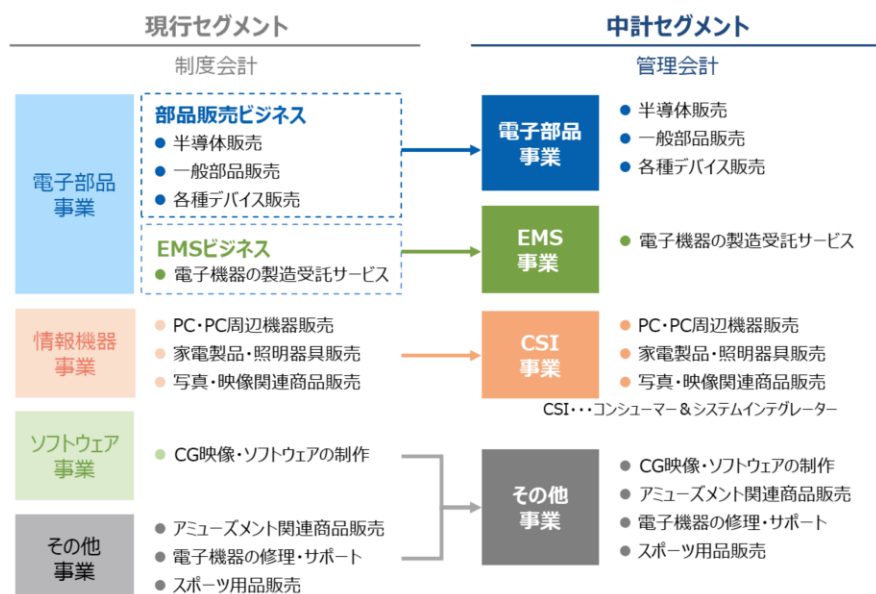
わたくしからのご説明は以上でございます。

ありがとうございました。

参考資料

中期経営計画に伴うセグメント開示に関して

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



2024年3月期 中計セグメント別業績

(単位：百万円)

		2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	前年比	前々年比
電子部品	売上高	325,830	398,783	360,743	△9.5%	10.7%
	セグメント利益	11,094 3.4%	19,475 4.9%	14,228 3.9%	△26.9%	28.2%
EMS	売上高	117,828	149,862	120,478	△19.6%	2.2%
	セグメント利益	7,356 6.2%	9,563 6.4%	7,375 6.1%	△22.9%	0.3%
CSI	売上高	39,616	43,680	44,305	1.4%	11.8%
	セグメント利益	2,085 5.3%	2,449 5.6%	2,924 6.6%	19.4%	40.2%
その他	売上高	12,552	15,739	17,170	9.1%	36.8%
	セグメント利益	255 2.0%	663 4.2%	1,208 7.0%	82.1%	372.4%
合計	売上高	495,827	608,064	542,697	△10.8%	9.5%
	セグメント利益	20,915 4.2%	32,249 5.3%	25,845 4.8%	△19.9%	23.6%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。



2024年3月期 中計セグメント別業績（直近3カ月）

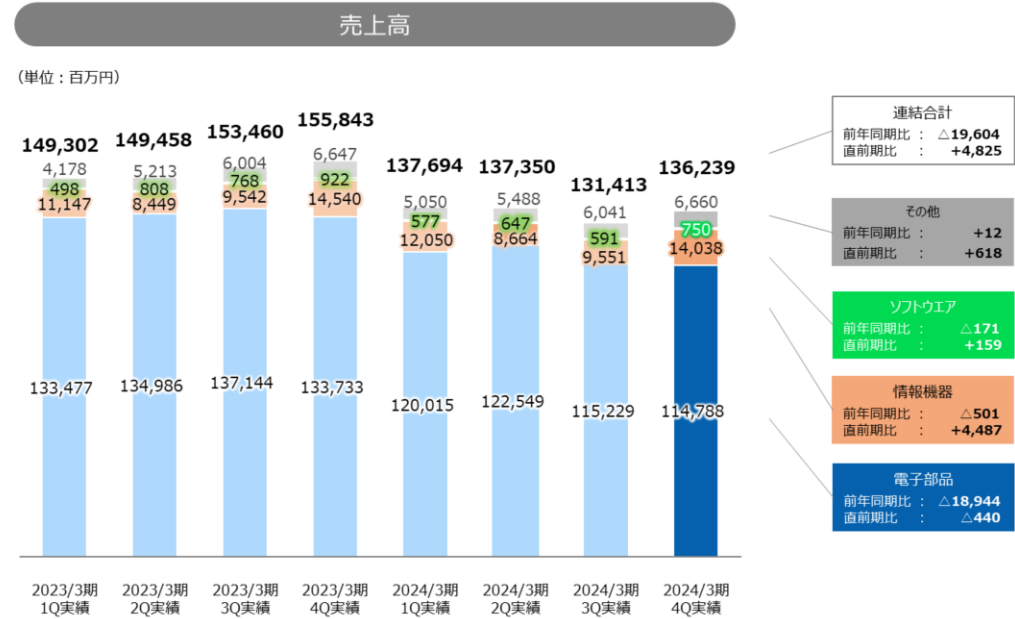
（単位：百万円）

		2023/3期 4Q実績 (前年同期)	2024/3期 3Q実績 (直前期)	2024/3期 4Q実績 (当期)	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	95,569	86,668	89,705	△6.1%	3.5%
	セグメント利益	3,573 3.7%	3,753 4.3%	2,472 2.8%	△30.8%	△34.1%
EMS	売上高	41,251	31,000	27,355	△33.7%	△11.8%
	セグメント利益	1,637 4.0%	1,798 5.8%	1,433 5.2%	△12.4%	△20.3%
CSI	売上高	14,540	9,551	14,038	△3.4%	47.0%
	セグメント利益	949 6.5%	641 6.7%	1,002 7.1%	5.6%	56.2%
その他	売上高	4,480	4,193	5,138	14.7%	22.5%
	セグメント利益	42 1.0%	396 9.5%	436 8.5%	924.3%	9.9%
合計	売上高	155,843	131,413	136,239	△12.6%	3.7%
	セグメント利益	6,242 4.0%	6,615 5.0%	5,353 3.9%	△14.2%	△19.1%

(注) : 1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×. ×%」は利益率を表します。



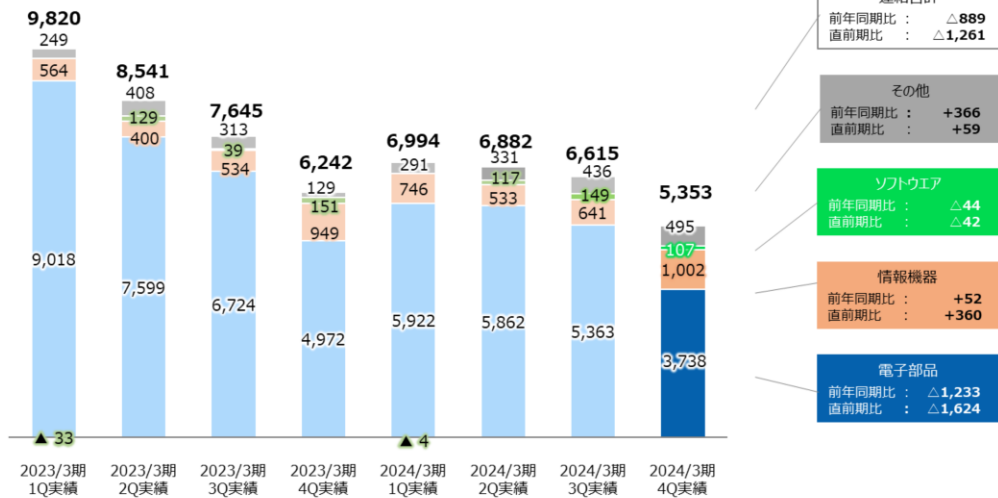
2024年3月期：セグメント別売上高（四半期推移）



2024年3月期：セグメント別営業利益（四半期推移）

セグメント利益・営業利益

(単位：百万円)

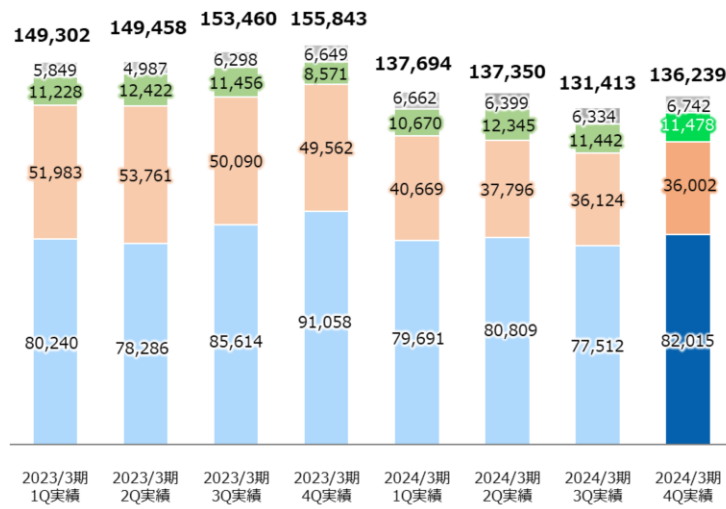


(注)：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2024年3月期：地域別売上高（四半期推移）

売上高

(単位：百万円)



連結合計
前年同期比：△19,604
直前期比：+4,825

欧州
前年同期比：+92
直前期比：+408

北米
前年同期比：+2,906
直前期比：+36

アジア
前年同期比：△13,560
直前期比：△121

日本
前年同期比：△9,043
直前期比：+4,503

為替レート／為替感応度

	2023/3期 実績 (円)	2024/3期 実績 (円)	(参考) 1%変動による影響額 (百万円)		2025/3期 前提 (円)
			売上高	営業利益	
米国ドル	135.47	144.62	1,740	26	145.00
人民元	19.48	19.82	328	22	19.50
タイバーツ	3.84	4.11	282	18	4.00
香港ドル	17.28	18.48	177	3	18.50
ユーロ	140.97	156.80	7	0	155.00

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報部

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入